

# “配水の安全と豊潤を祈願” 第35回香川用水水口祭

～国営事業・農業・農村のめぐみをPR～

＜香川用水二期農業水利事業所・四国土地改良調査管理事務所＞

6月11日（火）、香川県三豊市財田町の香川用水記念公園（東西分水工）において、先人の遺徳を称えとともに配水の安全と豊潤を祈願する『香川用水水口祭』が開催されました。（主催：香川用水土地改良区）

水口祭は農業用水の取水量が増量される6月11日に毎年開催され、香川用水の本格通水が始まった昭和50年から10年後の昭和60年に第1回を開催し、今年で35回目を迎えます。

讃岐平野では古くから田植え準備の際に水口（みなくち：田に水を引き入れる口）にお札を立てて水への祈りと感謝を捧げる風習があったことから、徳島県の吉野川から取水した香川用水が阿讃導水トンネルを通り香川県で初めて姿を見せる香川用水東西分水工を水口に見立てて「水口祭」を開催しています。水口祭は田植えの本格シーズン到来をつげる風物詩となっています。

当日は、香川県知事をはじめ、市町首長、関係土地改良区理事長等多数参列し、中国四国農政局からも香川用水二期農業水利事業所長、四国土地改良調査管理事務所長が出席し、玉串を奉納しました。神事の見所である新酒奉灌では、浜田県知事や組橋香川用水土地改良区理事長らが香川用水へ御神酒を注ぐと3本の水柱が勢いよく噴き上がり、大勢の人から歓声が上がりました。

また、水口祭には多くの一般の方々も来場することから、香川用水二期農業水利事業所と四国土地改良調査管理事務所が連携して、香川用水と農業との関わり、農業・農村のめぐみ（多面的機能）及び国営事業等についてパネルで紹介するとともに、各種パンフレットの配布を行いPR活動を行いました。

神事の後には、地元財田町の長野獅子や大野原靄王太鼓など、奉納やうどんの振る舞いもあり、大勢の参集者で賑わいました。



【出典：水資源機構香川用水管理所 HP 画像を一部加工】



神事



新酒奉灌



事業PR



長野獅子



大野原靄王太鼓



碧空会のうどん